

Bunkazai Design Contest 2022



—北海道の歴史文化を暮らしのグッズに—

審査結果発表

審査講評／トートバッグ完成のお知らせ

主催：NPO法人北海道遺産協議会



2023.03.30



コンテスト実施概要

応募総数

● 応募作品数

89 作品

● 応募人数

76 名

● 応募者について

海外と日本全国の幅広い世代からの応募あり。(北海道内からは17名)

● 応募者職業等

デザイナー、イラストレーター、学生、教員、一般の方々など

募集内容

● テーマ

「暮らしの中で持ち歩きたい、
誰かと話したくなる北海道遺産」

● デザインの対象

第1回選定で決定・公表された25件の北海道遺産のストーリーに含まれる建物・風景・人物・食などをモチーフとした、創造性豊かなイラストやグラフィックなどのデザイン表現

● デザインを展開するグッズ

トートバッグ

- ・サイズ/約W360×H370×マチ110mm、
- ・素材/コットン100% 8オンス

募集期間

2022年12月1日(木)～2023年2月15日(水) 午後5時必着

審査

● 審査基準

文化財の魅力を伝えるもの / 独自性のあるもの / 商品力

● 審査員

伊藤 千織(伊藤千織デザイン事務所) / プロダクトデザイン

照井 康穂(株式会社照井康穂建築設計事務所) / 建築

平塚 智恵美(有限会社叶多プランニング) / 商品化、アートマネジメント

野村 ソウ(株式会社スタジオワンダー) / グラフィックデザイン

酒井 秀治(株式会社SS計画) / まちづくり、コミュニティデザイン

矢野 ひろ(NPO法人北海道遺産協議会)



審査講評

伊藤 千織(伊藤千織デザイン事務所)

第3回目となる今回は、ファンタジーテイストの表現から、クスツと笑えるイラストまで、バラエティに富む作品が集まりました。その中でも、裏・表を持つトートバッグを生かし、両面使いならではのストーリーを込めたデザイン作品が光ったように思います。モチーフ表現のシンプルさ・大胆さと細部までの気遣い、オリジナリティに加えて最終的な「完成度」が、持ってみたい・誰かにあげたい・文化財のものがたりを語ってみたい佇まいを生み出すようです。

惜しくも選外となった中にも魅力的な作品が多く、選考には大変苦慮しましたが、次回もぜひチャレンジしてください！

野塚 智恵美(有限会社叶多プランニング)

前もっていただいた応募者のデータを何度か見ながら、事前自己採点を始めた。

①文化財の魅力を伝えるもの ②独自性のあるもの ③商品力 それらを各10点として採点していった。

今回、入賞した坂本牧葉さんの「北海道ラーメン」は群を抜いていた。その次は佳作となった北村友莉さんの「北の生命」が自己採点の中で柱となった。審査会では審査の基準である上記3点を踏まえ、それぞれの立場での思いの中、意見を交わした。私は今後さまざまな場所で販売されることをイメージし「商品化」を重視した。お金を払ってでも欲しくなるエコバック！その視点は次回応募される方にも大事だと思う。

酒井 秀治(株式会社SS計画)

ある建築家が言っていたこと。「デザイン(design)とは、de-signではないか。そのものを示す(sign)ことを、否定する(de)すること。つまり、デザインの対象の隠れた別の価値を表出させることではないか」と。審査しながらそんな言葉を思い出していました。入賞作品2点は、どちらもバッグの表裏を上手に使って時の流れを表現したもので、そこに作者さんの優れたユーモア・創造力を感じました。グラフィックの質以上にその物語に心が動かされました。

照井 康穂(株式会社照井康穂建築設計事務所)

本年度も全国から沢山の素敵な作品を応募いただき有り難うございました。どの作品も作者それぞれの想いが伝わってくる力作で、優劣をつけがたい作品が多く、事前の自己採点では同じモチーフごとの優劣をつけることにとどめ、審査会に臨みました。入賞された坂本牧葉さんの「北海道ラーメン」はバランスの良い表現でテーマが良く伝わってきます。同じく入賞された西田清彦さんの「タウシュバツ橋」はとりわけ文化財の魅力伝えていていることを高く評価しました。トートバックとなった時に素敵なデザイン表現となる、みなさまの次回の作品を期待しています。

野村 ソウ(株式会社スタジオワンダー)

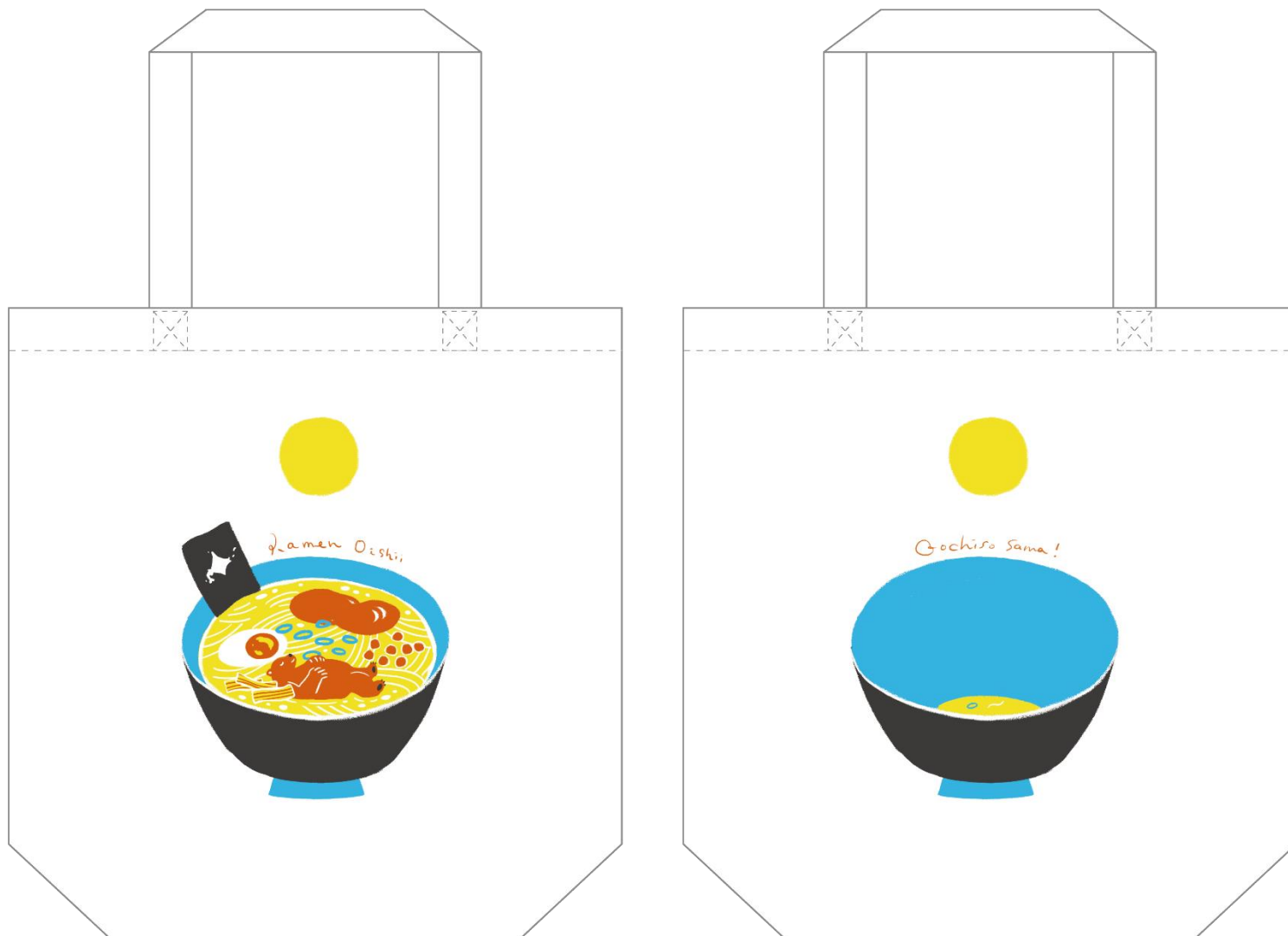
入賞2作品が食と建造物の作品で決定し、北海道遺産の幅広さを感じる結果になりました。世代も広く見ていただける受賞だと感じます。入選作品内で、あべみちこさんのイラスト内の雪合戦の部分、折戸朗子さんの裏のデザインにある水とレンゲから、きっと美味しいラーメン食べたんだろうなと感じるところなど、いいなと思うものもありました。それらを大胆にレイアウトしてもとても面白かったのではないかと感じます。学生の皆様にも多くご応募いただき、コンペを通して北海道遺産について知っていただくいい機会になったことも嬉しく思います。実際に触れる・見るきっかけになることを願っています。受賞・入選の皆様おめでとうございます。

矢野 ひろ(NPO法人北海道遺産協議会)

「デザインので北海道遺産の新しい見え方を」それはコンテストの狙いでした。今回様々な観点から描き出された素晴らしい作品の数々をみて、クリエイターの皆さんがその問いに答えてくれたように感じました。だとしたら、私はなにができるのか。それは私自身がデザインへの想像力をもつこと。まだ北海道遺産に出会っていない人たちが、想像を掻き立てるデザインので、その人らしく北海道遺産との出会いをしてくれる姿を想像しました。北海道遺産の価値を踏まえつつ、そんな作品を入賞に選びました。ぜひデザインから思いを馳せたり楽しんだりしてほしいと思います。



入賞



坂本 牧葉「北海道ラーメンにつかって」



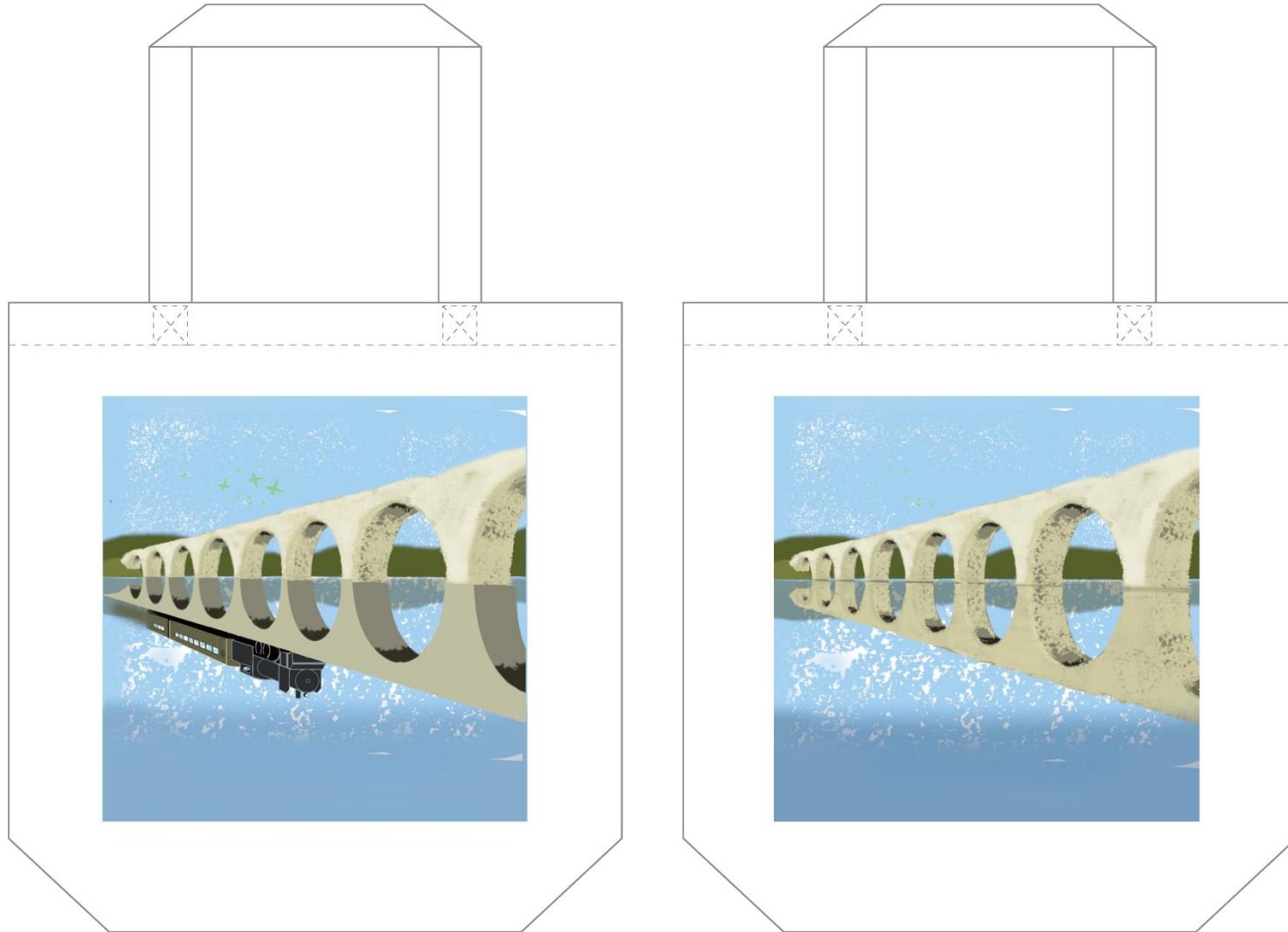
トートバッグ



坂本 牧葉「北海道ラーメンにつかって」



入賞



西田 清彦 「タウシュベツ橋」



トートバッグ



西田 清彦 「タウシュベツ橋」



佳作



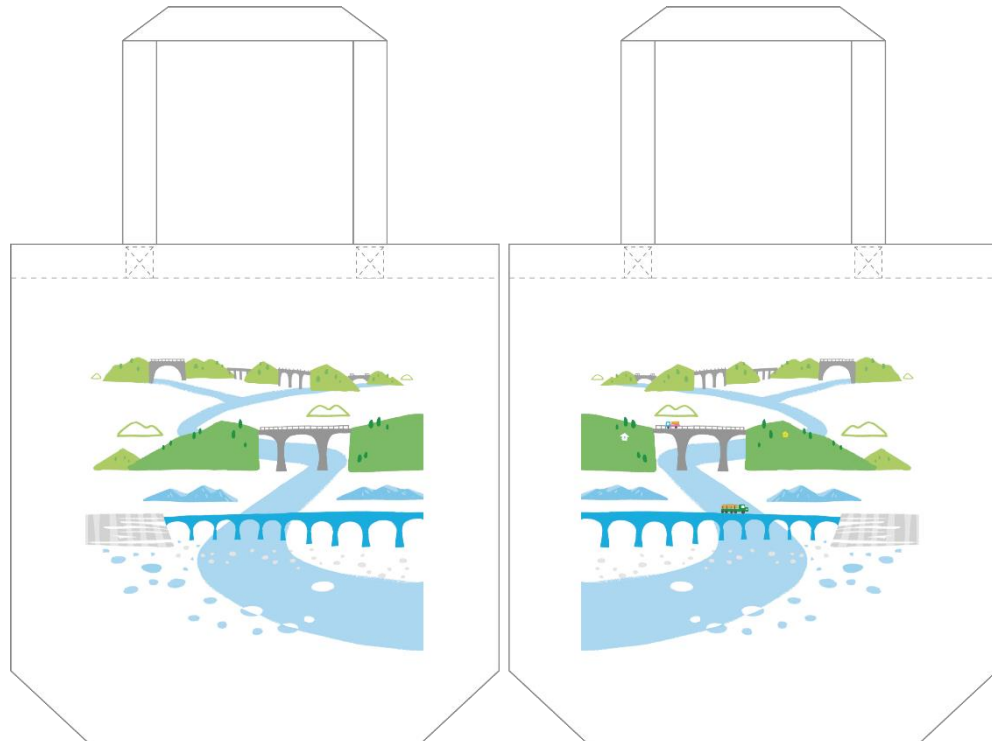
北村 友莉「北の生命」



入選



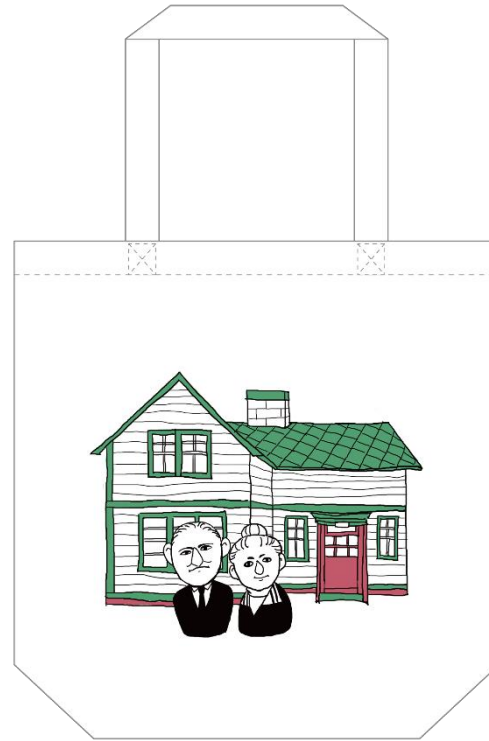
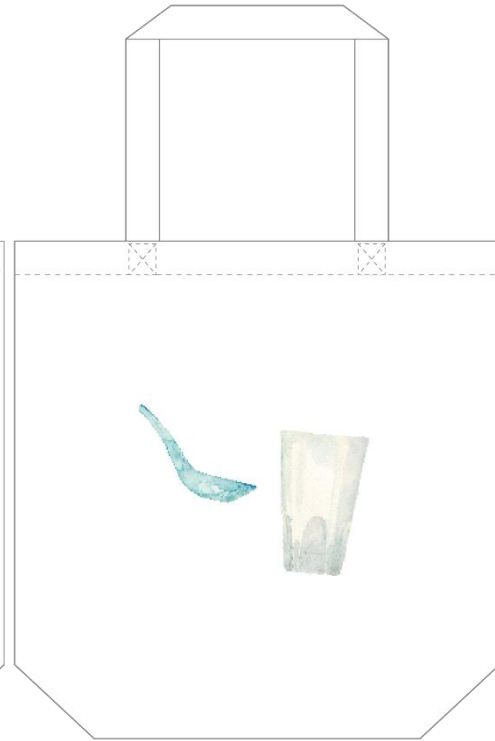
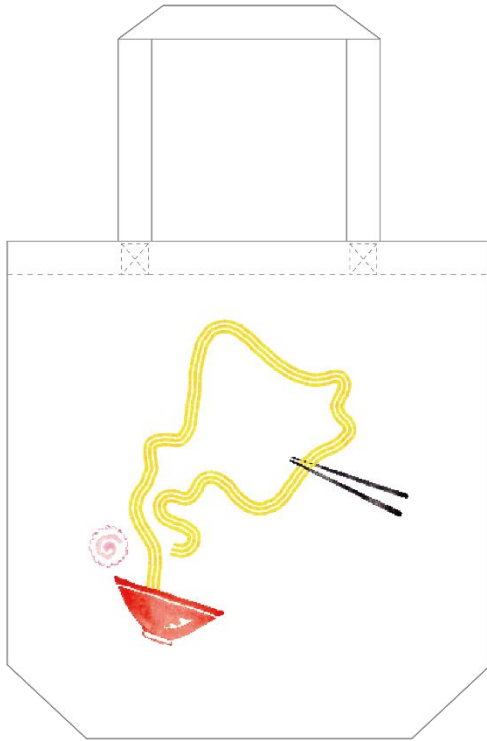
あべみちこ
「じっくり味わう北海道遺産」



坂本 牧葉
「橋でつなぐ風景」



入選

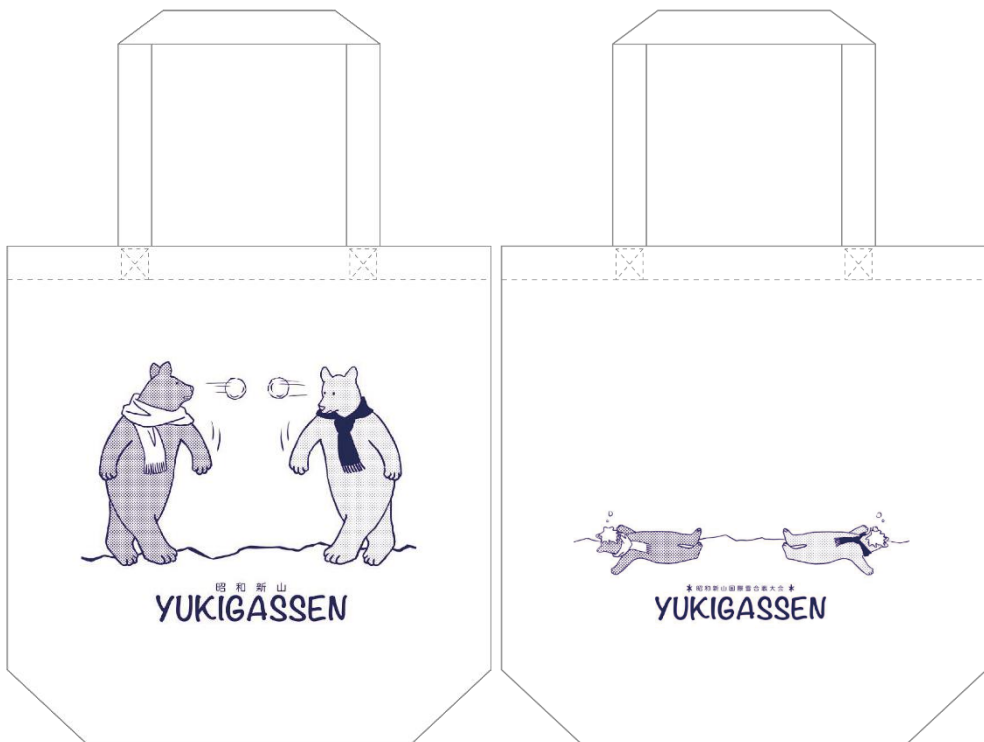


折戸 朗子
「食べちゃえ！北海道」

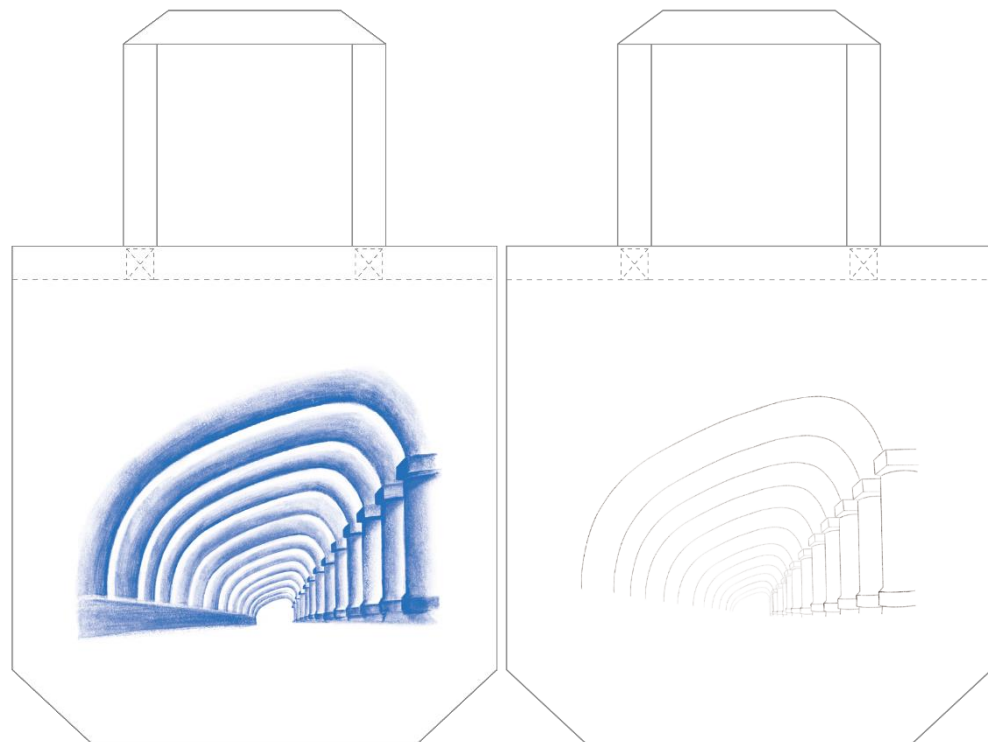
藤川 奈美絵
「ピアソン記念館とピアソン夫妻」



入選



古賀 真由美
「雪合戦」



伊藤 永羽
「思い返したくなる記憶」